

小学校家庭科授業における 問題解決的な学習の展開についての一考察

米 持 広 美

A Consideration on Development of Problem-Based Learning
in Home Economics Class in Elementary School

Hiromi YONEMOCHI

【要 旨】

家庭科教育は、新学習指導要領の目標の中に『(2) 日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し考えたことを表現するなど、問題を解決する力を養う』が盛り込まれた。

本研究は〇市5・6年生の家庭科授業を担当している教員を対象に、問題解決的な学習への取り組み状況を調査し、学校現場の教員の問題解決的な学習に対する意識を明らかにすることを目的とした。その結果、〇市では意識した問題解決的な学習があまり行われておらず、特に「課題設定」と「実践の評価・改善」に課題があることが明らかになった。また、「生活に役立つものの製作」や「日常食の調理と基礎」にその傾向が顕著に表出した。生活をよりよくしようと工夫する学習者を育てるためには、家庭科型問題解決的な学習過程をより一般化していくことが大切である。今回の調査からは、課題を持たせる際に「自分の考えをまとめる場」、実践後の「新たな考えをまとめる場」を設定した単元プランにすることと、技能習得に重点が置かれがちな単元と学習者の生活に密着した単元を組み合わせ、横断的な単元プランにしていくことが提案できる。

【キーワード】

小学校家庭科教育 新学習指導要領 問題解決的な学習

1、緒言

2020年4月、教育の内容だけではなく教育の方法が示された小学校学習指導要領(2017, 3月告示)が全面実施となった。これまでも、全ての教科において、知識・理解を教えることだ

けを目標としていたわけではないが、新学習指導要領のもとで、学力の3要素(知識及び技能、思考・判断・表現力等、学びに向かう力・人間性等)の上に立ち、これまで以上に、見方・考え方を働かせながら、主体的・対話的で深い学びを展開することによって、資質・能力を育む教育を展開していかなければならない。

今回の改定で、家庭科教育においては、新学習指導要領の目標⁽¹⁾〈図1〉の中に、『(2) 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、問題を解決する力を養う。』が盛り込まれた。

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) 家庭生活を大切にする心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。

〈図1〉小学校家庭科の目標
(小学校学習指導要領解説家庭科編より)

また、〈図2〉⁽¹⁾は学習指導要領の改善点を踏まえた家庭科の学習過程の例として示されたものである。生活の中から課題を見だし、課題解決に向けた一連の学習過程を重視し、この過程を踏まえた中で、知識・技能を習得し、それらを活用して思考・判断・表現力等を育成していくことが、目標『(3) 家族の一員として生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う』ことを示している。さらに、「報告：児童生徒の学習評価の在り方 H31.1.21中教審初等教育分科会」⁽²⁾においても、「主体的に学習に取り組む態度」の観点の評価については、知識及び技能を獲得したり、思考・判断・表現等を身に付

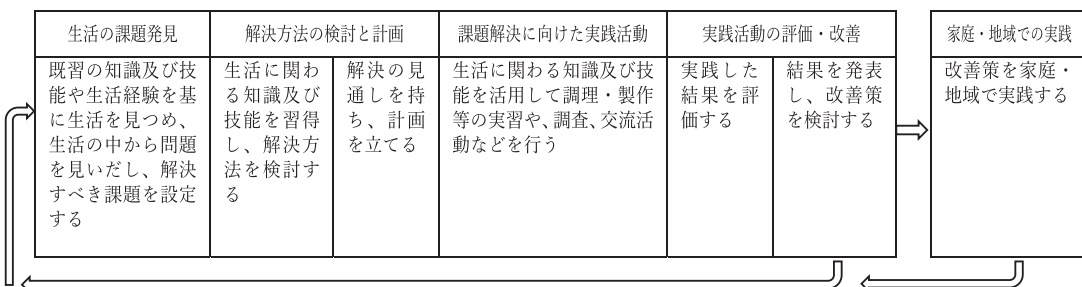
けたりすることによって粘り強い取り組みの中で、自ら学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価するとされた。つまりこの改定により、家庭科は、児童が自ら発見した生活課題に取り組める問題解決的学習が展開できるよう単元プランを立てていくことが重要だといえる。

2、家庭科型問題解決的な学習過程

2019年度(R1)全国小学校家庭科教育研究大会全国大会(熊本大会)⁽³⁾の学習過程〈図3〉は【見つめる、わかる・できる、活かす、広げる】で単元プランが組まれていた。学習のゴールと「なりたい自分」をもとに学習課題が設定【見つめる】され、基礎・基本の知識・技能【わかる・できる】を習得し、実践的・体験的な活動を通し習得できるようにした。さらに、「我が家」や「設定家族」の問題に思考・判断・表現力を働かせ、活用【活かす】させ、なりたい自分にどれだけ近づいたか、家庭実践で学びを振り返る【広げる】問題解決的な学習過程が組まれていた。

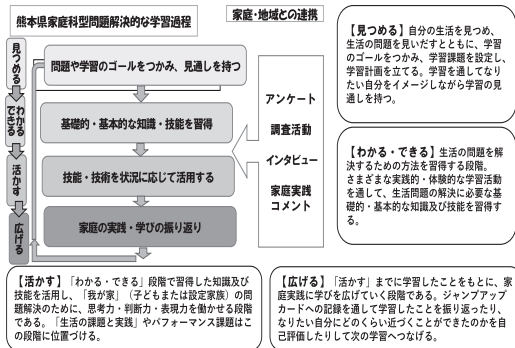
筆者¹⁾は、公立中学校教諭時代、食品選択の授業において、次の2点を確認した。①学習者が、自分の考え(価値)を明らかにさせた後、実践的・体験的な情報収集で根拠を持たせ、それを班、学級で【価値検討の場】(交流し、自分の考えを省察する場)を設けることにより、自分の価値(考え)が多面的かつ社会的な価値(考え)につながること。②自分の考え(価値)

家庭科、技術・家庭科(家庭分野)の学習過程の参考例



* 上記に示す各学習過程は例示であり、上例に限定されるものではないこと

〈図2〉家庭科の学習過程のイメージ(小学校学習指導要領解説家庭科編より)



〈図3〉熊本県家庭科の学習過程 2019, 11 (第56回全国小学校家庭科教育研究会全国大会熊本大会報告より)

を明らかにさせながら意思決定させていくと、見通しを持った選択（自分の価値観形成）につながる。筆者は当時意識していなかったが、自己の生活を見つめ、知識・技能により獲得した根拠を他者と交流し、「聴く」ことで自分を省察し、よりよい生活を創造するという問題解決型の授業であった。

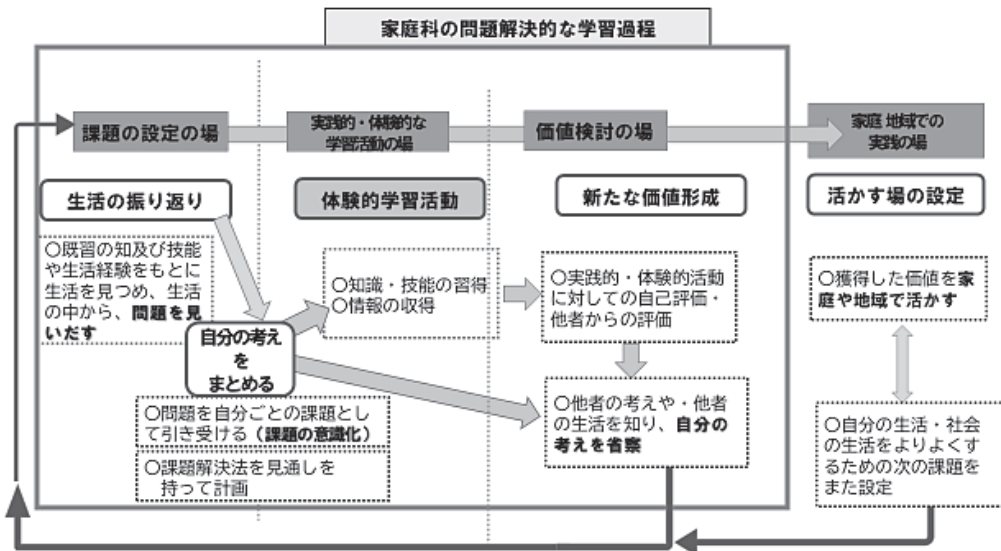
この授業でもそうであったが、どの授業でも学習者が課題を引き受け「自分ごと」にしたとき、問題解決的な学習の【課題の設定】となる。

伊波²⁾は、家庭科の一つの題材における学びは、ヴィゴキー（1928-1034）の「即時：自分に

とって、まだ曖昧な生活の営み」・「対他：外部化（他者とのことばやモノを介したかわり、モノとの身体的かわり）」・「対自：生活の営みの“自分にとっての意味”の確定」という一連の過程への移行になっていることを示し、それを繰り返すことによって“生活についての理解”を深めていく過程を明らかにしている。さらに、“生涯にわたって生活について理解を深めていく過程”への働きかけとして家庭科授業を位置付けられることを示した。

生活は総合体であるため、授業単位として範囲を定め、生活の無意識を意識化させ【課題設定】をさせることが重要である。さらに、前述の筆者の実践的・体験的な情報収集で根拠を持たせ、【価値検討の場】を設定することで、学習者に「活用したい」という願いや「活用できる」力が生まれてくると考える。

伊深³⁾は、家庭科の学びを深めるには、「聴く」ことを重視することが必要である。（中略）多様な教育方法の中で「聴く」ことを大切にすることで、学びは深まっていく。教材に向き合い教材の声を聴く、教材から聴こえたことを表現して教室に集まっている友達の声を聴き、質問をして、ズレを確認して声を交流することで



〈図4〉家庭科型問題解決的な学習過程 米持

自分の考えを広げる。最後に自分の声を聴き自分の言葉で表現する。さらに、表現された自分の言葉を交流することが次の学びを作り出す。とし、アクティブラーニングの教室内の共同、コミュニケーションの手法を参考に、さらに問題解決型の学習への取り組みを進めていく必要性を述べている。

家庭科は、一人ひとり異なる学習者の生活を対象としている。生活に対し、無意識である児童、はじめて授業で包丁を触る児童もいれば逆に、毎日家庭で献立を考え食事作りを担当している・担当せざるを得ない児童もいる。つまり、学習者がそれぞれの家庭や、生活経験、発達段階に応じ、「自分ごと」として生活課題を引き受ける必要がある。追求の過程で知識・技能を習得しながら、他の考えを知ったり、他の生活を見聞きしたりすることで、自分の生活への活用力を育てていく。そして、現在から将来にわたって、自分の生活・社会の生活をよりよくするための次の課題をまた設定していくことが問題解決学習的な家庭科授業となると考える。

〈図4〉に家庭科型問題解決的な学習過程をまとめてみた。

3、目的

本研究は、新指導要領において重視され、これまで数多くの授業実践が報告されている問題解決的な学習に対する、学校現場の教員の意識を明らかにする。また、小学校家庭科における「内容」ごとの比較により、問題解決学習がなぜ取り組みにくいのかを考察し、今後の授業実践につなげてほしいと願う。

4、調査方法

〇市内小学校51校に対する内容別質問紙によるアンケート調査を実施(2019,11~2020,1)

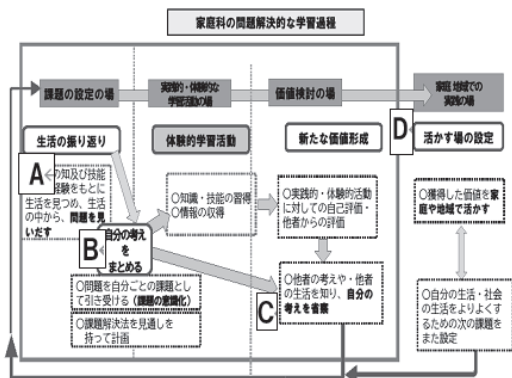
回収率：54%28校 102名(授業者：5年51名、6年51名)

(調査項目)

- 1、家庭科における問題解決学習の取り組みの有無。
- 2、内容(開隆堂：私たちの家庭科5・6) 単元ごとに次のA/B/C/D段階を4/3/2/1の実施状況で回答

なお、A/B/C/Dの段階は、〈図4〉をもとに、〈図4-2〉で示した。ただし、〈図4〉における、実践的・体験的な活動の場の設定、それに対する評価の場については、ほぼできているものとして、調査対象外とした。

開隆堂 5年	家族	5-①	わたしと家族の生活
	食調	5-②	はじめてみようクッキング(ゆでる 卵・野菜)
	衣製	5-③	はじめてみようソーイング(手縫いの基礎小物づくり)
	住	5-④	かたづけよう身の回りの物(整理整頓 3R)
	家族	5-⑤	やってみよう家の仕事(家庭の仕事)
	衣製	5-⑥	わくわくミシン(ミシンの基礎・製作実習)
	食調	5-⑦	食べて元気に(5大栄養素・ご飯とみそ汁)
	消環	5-⑧	じょうずに使おうお金と物(生活とお金・買い物の仕方)
	衣住	5-⑨	寒い季節を快適に(衣服の働き 暖かい着方) (明るく・あたたかく住まう)
	家族	5-⑩	家族とホットタイム(楽しく団らん)
開隆堂 6年	家族	6-①	わたしの生活時間
	食調	6-②	炒めてつくろう朝食のおかず(朝食 炒める)
	住	6-③	クリーン大作戦(掃除の仕方 実施)
	衣住	6-④	暑い季節を快適に(涼しい住まい方) (涼しい着方 洗濯実習)
	衣製	6-⑤	楽しくソーイング(つくりたいもの計画・製作)
	食調	6-⑥	工夫しようおいしい食事(献立 身近な食品 調理実習調理)
	家族	6-⑦	共に生きる生活(地域 感謝の会)



〈図4-2〉家庭科型問題解決的な学習過程(米持)における質問段階A/B/C/Dの位置付け

- 1：できていない
- 2：あまりできていない
- 3：ほぼできている
- 4：できている

- A：日常生活を振り返る場の設定
B：自分の考えをまとめる場の設定
C：新たな考えをまとめる場の設定
D：日常生活に活かす場の設定

5、結果

(1) 家庭科における問題解決的な学習への取り組み〈表1〉(5・6年とも回答した専科教員を含む)

〈表1〉家庭科における問題解決的な学習への取り組み状況

n=5年51 6年51	1行っていない		2あまり行っていない		3ほぼ行っている		4行っている	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
5年	13	25%	19	37%	17	33%	2	4%
6年	14	27%	21	41%	13	25%	3	6%
全	27	26%	40	39%	30	29%	5	5%

(2) 問題解決的な学習過程 A/B/C/D 段階の実施状況 〈表2〉は、5年10単元 (n=51) と6年7単元 (n=51) をたし、A/B/C/D の表出を見た。

〈表2〉問題解決的な学習過程 A/B/C/D の実施状況

全	1できない		2あまりできない		3ほぼできている		4できている	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
A	15	2.1%	96	13.6%	320	45.3%	275	39.0%
B	64	8.9%	187	26.0%	387	53.9%	80	11.1%
C	60	8.0%	239	32.0%	381	50.9%	68	9.1%
D	14	1.8%	107	14.1%	386	50.8%	253	33.3%

(3) 単元別、問題解決的な学習過程 A/B/C/D 段階の実施状況 〈表3〉

〈表3〉単元別、問題解決的な学習過程 A/B/C/D の実施状況

n=102名 5年・51 6年・51	単元	A 日常生活を振り返る場の設定								B 自分の考えをまとめる場の設定								C 新たな考えをまとめる場の設定								D 日常生活に活かす場の設定											
		1		2		3		4		1		2		3		4		1		2		3		4		1		2		3		4					
		できない		あまりできない		ほぼできている		できている		できない		あまりできない		ほぼできている		できている		できない		あまりできない		ほぼできている		できている		できない		あまりできない		ほぼできている		できている					
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合						
家族	5-①	51	2	4%	11	22%	23	45%	15	29%	50	0	0%	14	28%	30	60%	6	12%	50	0	0%	14	28%	34	68%	2	4%	51	2	4%	11	22%	23	45%	15	29%
食調	5-②	51	2	4%	1	2%	30	59%	18	35%	50	4	8%	22	44%	20	40%	4	8%	50	4	8%	18	36%	26	52%	2	4%	51	2	4%	1	2%	30	59%	18	35%
衣製	5-③	51	2	4%	10	20%	29	57%	10	20%	50	6	12%	20	40%	22	44%	2	4%	50	8	16%	19	38%	17	34%	6	12%	51	2	4%	10	20%	29	57%	10	20%
住	5-④	51	2	4%	4	8%	21	41%	24	47%	50	2	4%	13	26%	27	54%	8	16%	50	0	0%	9	18%	35	70%	6	12%	51	2	4%	4	8%	21	41%	24	47%
家族	5-⑤	51	0	0%	4	8%	13	25%	34	67%	50	2	4%	11	22%	31	62%	6	12%	50	2	4%	4	8%	40	80%	4	8%	51	0	0%	4	8%	13	25%	34	67%
衣製	5-⑥	51	2	4%	11	22%	26	51%	12	24%	50	8	16%	21	42%	19	38%	2	4%	50	9	18%	23	46%	15	30%	3	6%	51	2	4%	11	22%	26	51%	12	24%
食調	5-⑦	36	2	6%	1	3%	16	44%	17	47%	41	2	5%	9	22%	23	56%	7	17%	35	2	6%	12	34%	20	57%	1	3%	36	2	6%	1	3%	16	44%	17	47%
消環	5-⑧	36	0	0%	7	19%	10	28%	19	53%	40	2	5%	7	18%	24	60%	7	18%	34	2	6%	7	21%	21	62%	4	12%	36	0	0%	7	19%	10	28%	19	53%
衣住	5-⑨	36	2	6%	7	19%	13	36%	14	39%	41	2	5%	10	24%	23	56%	6	15%	35	4	11%	9	26%	21	60%	1	3%	36	2	6%	7	19%	13	36%	14	39%
家族	5-⑩	36	0	0%	5	14%	15	42%	16	44%	40	4	10%	9	23%	25	63%	2	5%	34	4	12%	10	29%	14	41%	6	18%	36	0	0%	5	14%	15	42%	16	44%
家族	6-①	37	0	0%	0	0%	16	43%	21	57%	37	0	0%	11	30%	21	57%	5	14%	45	0	0%	12	27%	29	64%	4	9%	45	0	0%	3	7%	29	64%	13	29%
食調	6-②	37	1	3%	2	5%	19	51%	15	41%	37	8	22%	4	11%	21	57%	4	11%	45	8	18%	17	38%	16	36%	4	9%	45	0	0%	3	7%	23	51%	19	42%
住	6-③	39	0	0%	9	23%	13	33%	17	44%	39	8	21%	2	5%	23	59%	6	15%	49	8	16%	21	43%	13	27%	7	14%	49	0	0%	8	16%	29	59%	12	24%
衣住	6-④	37	0	0%	8	22%	17	46%	12	32%	37	8	22%	2	5%	25	68%	2	5%	45	0	0%	14	31%	27	60%	4	9%	45	0	0%	6	13%	31	69%	8	18%
衣製	6-⑤	37	0	0%	6	16%	19	51%	12	32%	37	8	22%	10	27%	17	46%	2	5%	45	9	20%	23	51%	11	24%	2	4%	45	0	0%	20	44%	22	49%	3	7%
食調	6-⑥	35	0	0%	8	23%	15	43%	12	34%	35	0	0%	11	31%	18	51%	6	17%	41	0	0%	20	49%	12	29%	9	22%	41	0	0%	3	7%	27	66%	11	27%

(4-1) 内容のまとめり別、問題解決的な学習過程 A/B/C/D 段階の実施状況

〈表4〉

教科書の単元名だけで内容のまとめりを構成することはできないが、ここでは傾向を見るため下記のように分類した。

【家族と家庭生活】

家族	5-①	わたしと家族の生活
	5-⑤	やってみよう家の仕事(家庭の仕事)
	5-⑩	家族とホットタイム(楽しく団らん)
	6-①	わたしの生活時間
	6-⑦	共に生きる生活(地域 感謝の会)

【日常食の調理と基礎】

食調	5-②	はじめてみようクッキング(ゆでる 卵・野菜)
	5-⑦	食べて元気に(5大栄養素・ご飯とみそ汁)
	6-②	炒めてつくろう朝食のおかず(朝食 炒める)
	6-⑥	工夫しようおいしい食事(献立 身近な食品 調理実習調理)

【快適な衣服と住まい】

(生活に役に立つものの製作)

衣製	5-③	はじめてみようソーイング(手縫いの基礎小物づくり)
	5-⑥	わくわくミシン(ミシンの基礎・製作実習)
	6-⑤	楽しくソーイング(つくりたいもの計画・製作)

(快適な住まい方)

住	5-④	かたづけよう身の回りの物(整理整頓 3R)
	6-③	クリーン大作戦(掃除の仕方 実施)

(快適な住まい方・衣服の着用と手入れ)

衣住	5-⑨	寒い季節を快適に(衣服の働き 暖かい着方)(明るく・あたたかく住まう)
	6-④	暑い季節を快適に(涼しい住まい方)(涼しい着方 洗濯実習)

【身近な消費生活と環境】

消費	5-⑧	じょうずに使おうお金と物(生活とお金買い物の仕方)
----	-----	---------------------------

〈表4〉 内容のまとめり別、問題解決的な学習過程 A/B/C/D の実施状況

【家族と家庭生活】〈表4-1〉

家族		できない	あまりできない	ほぼできている	できている	
A	5-①	4%	22%	45%	29%	
	5-⑤	0%	8%	25%	67%	
	5-⑩	0%	14%	42%	44%	
	6-①	0%	0%	43%	57%	
	6-⑦	0%	6%	74%	21%	
B	5-①	0%	28%	60%	12%	
	5-⑤	4%	22%	62%	12%	
	5-⑩	10%	23%	63%	5%	
	6-①	0%	30%	57%	14%	
6-⑦	0%	32%	53%	15%		
	C	5-①	0%	28%	68%	4%
		5-⑤	4%	8%	80%	8%
5-⑩		12%	29%	41%	18%	
6-①		0%	27%	64%	9%	
6-⑦	0%	18%	75%	8%		
	D	5-①	4%	22%	45%	29%
		5-⑤	0%	8%	26%	68%
5-⑩		0%	11%	42%	44%	
6-①		0%	7%	64%	29%	
6-⑦	0%	8%	73%	20%		

【日常食の調理と基礎】〈表4-2〉

食調		できない	あまりできない	ほぼできている	できている
A	5-②	4%	2%	59%	35%
	5-⑦	6%	3%	44%	47%
	6-②	3%	5%	51%	41%
	6-⑥	0%	23%	43%	34%
B	5-②	8%	44%	40%	8%
	5-⑦	5%	22%	56%	17%
	6-②	22%	11%	57%	11%
	6-⑥	0%	31%	51%	17%
C	5-②	8%	36%	52%	4%
	5-⑦	6%	34%	57%	3%
	6-②	18%	38%	36%	9%
	6-⑥	0%	49%	29%	22%
D	5-②	4%	2%	59%	35%
	5-⑦	6%	3%	44%	47%
	6-②	0%	7%	51%	42%
	6-⑥	0%	7%	66%	27%

【快適な衣服と住まい】〈表4-3〉
 (快適な住まい方・衣服の着用と手入れ)

衣住		できない	あまり できない	ほぼ できている	できている
A	5-⑨	6%	19%	36%	39%
	6-④	0%	22%	46%	32%
B	5-⑨	5%	24%	56%	15%
	6-④	22%	5%	68%	5%
C	5-⑨	11%	26%	60%	3%
	6-④	0%	31%	60%	9%
D	5-⑨	6%	19%	36%	39%
	6-④	0%	13%	69%	18%

【快適な衣服と住まい】
 (生活に役立つものの製作) 〈表4-4〉

衣製		できない	あまり できない	ほぼ できている	できている
A	5-③	4%	20%	57%	20%
	5-⑥	4%	22%	51%	24%
	6-⑤	0%	16%	51%	32%
B	5-③	12%	40%	44%	4%
	5-⑥	16%	42%	38%	4%
	6-⑤	22%	27%	46%	5%
C	5-③	16%	38%	34%	12%
	5-⑥	18%	46%	30%	6%
	6-⑤	20%	51%	24%	4%
D	5-③	4%	20%	57%	20%
	5-⑥	4%	22%	51%	24%
	6-⑤	0%	44%	49%	7%

【快適な衣服と住まい】(快適な住まい方)
 (表4-5)

住		できない	あまり できない	ほぼ できている	できている
A	5-④	4%	8%	41%	47%
	6-③	0%	23%	33%	44%
B	5-④	4%	26%	54%	16%
	6-③	16%	4%	46%	15%
C	5-④	0%	18%	70%	12%
	6-③	16%	43%	27%	14%
D	5-④	4%	8%	41%	47%
	6-③	0%	13%	69%	18%

【身近な消費生活と環境】〈表4-6〉

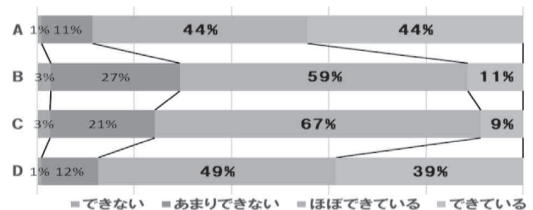
消環		できない	あまり できない	ほぼ できている	できている
A	5-⑧	0%	19%	28%	53%
B	5-⑧	5%	18%	60%	18%
C	5-⑧	6%	21%	62%	12%
D	5-⑧	0%	19%	28%	53%

(4-2) 内容のまとまり別、問題解決的な学習過程 A/B/C/D 段階の実施

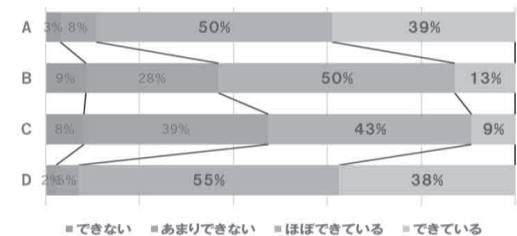
〈図5〉は〈表4〉の内容のまとまり別 A/B/C/D の表出において、単元数が異なり、調査実数も異なることから、内容のまとまり全単元の調査実数を加算することによって、A/B/C/D 段階による表出を割合グラフで示した。

n=	A	B	C	D
家族	159	163	171	173
食調	139	137	145	147
衣製	139	137	145	147
衣住	73	78	80	81
住	90	89	99	96
消環	36	40	34	36

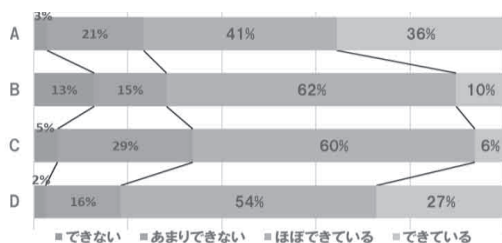
〈図5〉内容のまとまり別、問題解決的な学習過程 A/B/C/D 段階の実施状況



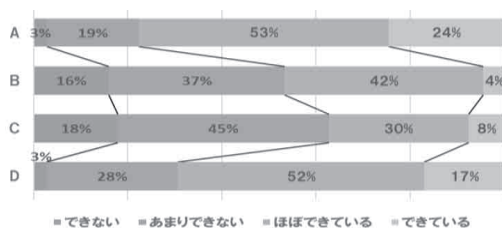
【家族と家庭生活】〈図5-1〉



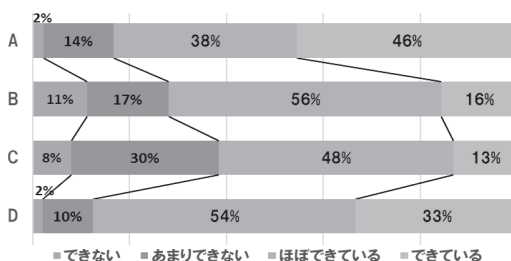
【日常食の調理と基礎】〈図5-2〉



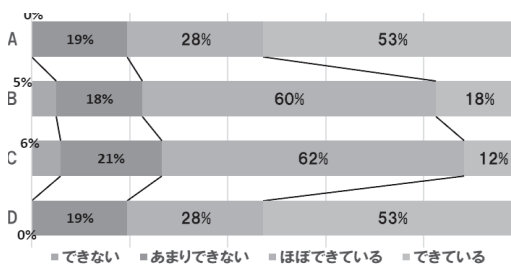
【快適な衣服と住まい】〈図5-3〉
(快適な住まい方・衣服の着用と手入れ)



【快適な衣服と住まい】〈図5-4〉
(生活に役立つものの製作)



【快適な衣服と住まい】〈図5-5〉
(快適な住まい方)



【身近な消費生活と環境】〈図5-6〉

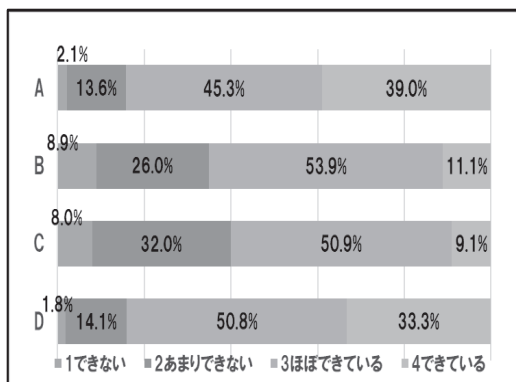
6. アンケート結果より考察

(1) 家庭科における問題解決的な学習への取り組み

今回調査での問題解決的な学習への取り組み

は、〈表1〉より「ほぼ行っている」「行っている」をあわせ、35名34.4%であり、O市では家庭科における問題解決的な学習は、意識して取り組みがあまりなされていないのではないかと推察する『この35名を抽出とする』。

また、問題解決的な学習過程 A/B/C/D 段階の実施について、A「日常生活を振り返る場の設定」・D「日常生活に生かす場の設定」に比べ、B「自分の考えをまとめる場の設定」・C「新たな考えをまとめる場の設定」の「できている」が1割程度と少ない。〈図6〉つまり、生活の振り返りはするが、「自分ごと」としての『課題設定』はできておらず、知識・技能を習得させ、それを、実生活(家庭)でも実践させる展開になっているのではないかと考える。

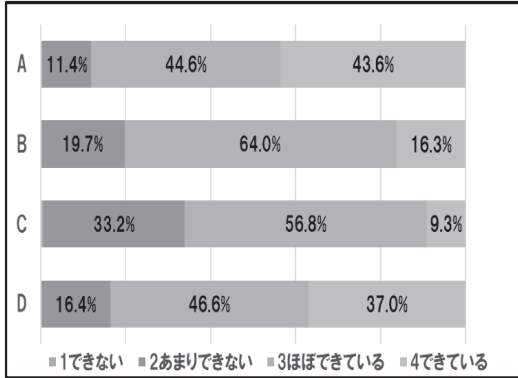


〈図6〉問題解決的な学習過程 A/B/C/D 段階の実施状況の割合 (全体) 〈表2より作成〉

また、問題解決的な学習過程 A/B/C/D 段階の実施について、全体〈表2〉〈図6〉と前述の『抽出35名』を比較した。〈表5〉〈図7〉

〈表5〉「ほぼ行っている」「行っている」と回答した35名の問題解決的な学習過程 A/B/C/D の実施状況

n=35 5年10単位 6年7単位	1 できない		2 あまりできない		3 ほぼできている		4 できている	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
A	1	0.3%	33	11.4%	129	44.6%	126	43.6%
B	0	0.0%	57	19.7%	185	64.0%	47	16.3%
C	2	0.6%	107	33.2%	183	56.8%	30	9.3%
D	0	0.0%	53	16.4%	151	46.6%	120	37.0%



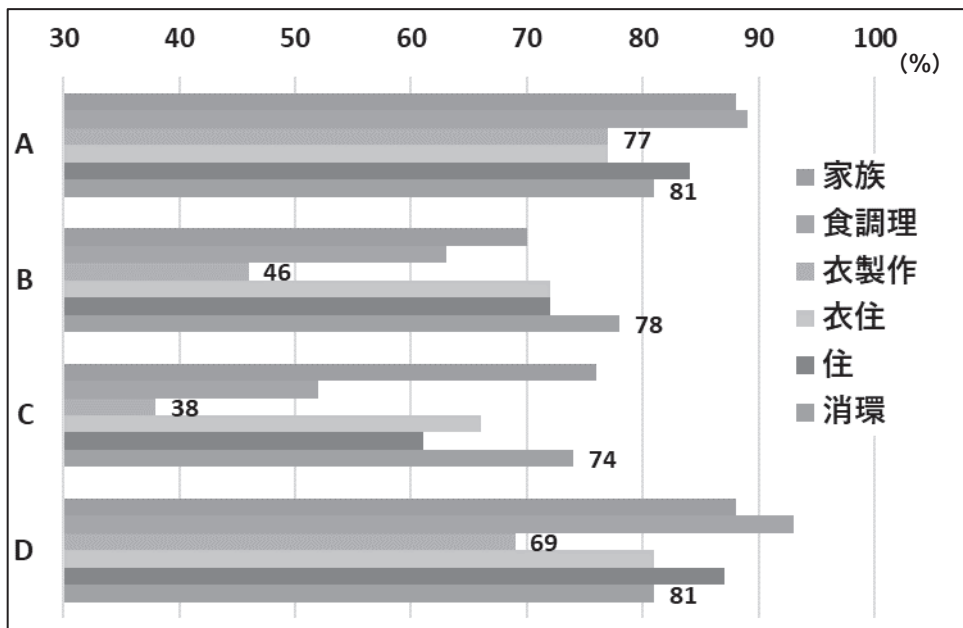
〈図7〉 問題解決的な学習過程 A/B/C/D 段階の実施状況の割合
 (「ほぼ行っている」「行っている」と回答した抽出35名)〈表5より作成〉

この結果、顕著な差異は見られなかった。やや問題解決的な学習を行っているとした『抽出35名』のほうで、A「日常生活を振り返る場の設定+3.9」、B「自分の考えをまとめる場の設定+15.3」において優位ではあった。したがって、問題解決的な学習を行っているとしても、日常生活の振り返りをし、自分の課題を認識させるところが主であり、自分の考えを省察するところまではいっていないと推測する。し

かし、この調査では自分の課題が「自分ごと」として追求課題になりえているかは不明である。

(2) 内容ごとの問題解決的な学習への取り組み
 内容別に問題解決的な学習過程 A/B/C/D 段階の実施状況を〈図8〉に示した。

内容については横断的な単元プランが組まれている可能性があり、正確なことが言えないものの、『生活に役立つものの製作：A77%、B46%、C38%、D69%』において、B「自分の考えをまとめる場の設定」やC「新たな考えをまとめる場の設定」の割合がかなり低い。これは、衣生活における学習者の生活経験の少なさや家庭での実践度の低さにより、課題設定が困難になっているのではないかと考えられる。また、授業者も単元プランにおいて、布を使った一斉の技能習得をめざす実習を中心に考えているのではないと思われる。同様に『日常食の調理と基礎』も B、C は低く問題解決的な学習になっているのか不安だが、D「日常生活に活かす場の設定」が93%であり、家庭での実践は取り組みやすいようだ。つまり、A「日常生活



〈図8〉 内容別問題解決的な学習過程 A/B/C/D 段階の実施状況の割合

の振り返り」が自分ごとの課題設定に繋がっておらず、「自分ごと」としての追求課題になっていないまま、取り組みやすい技術面での家庭実践となっているのではないかと考える。

逆に『家族と家庭生活：A88%、B70%、C76%、D88%』や、『身近な消費生活と環境A81%、B78%、C74%、D81%』は、技術重視より、生活課題を追求させた問題解決型の授業展開がなされているように見てとれる。この2つの内容は、現在進行形の学習者の日常を振り返り問題意識を持たせ、課題をつくっていくA「日常生活を振り返る場の設定」の割合が比較的高く、特にC「新しい考えをまとめる場の設定」の割合が他の内容に比べ非常に高い。Cは、学習した知識・技能や他者からもらった有効な情報をもとに自分の考えを省察する場、そしてこの単元の自分の学習を総括し、次の学習課題を生み出すもとなる場であると考えことから、問題解決的な学習では重要な場であろう。

7、まとめ

(1) 家庭科型問題解決的な学習をめざして

授業者の問題解決的な学習に対するとらえ方は、一定化されていないことが分かった。おおむね生活の振り返りで、課題を持たせ、体験的・実践的な活動等で知識・技能を身につけさせ、日常生活に生かす実践をする流れになっているのではないかと推測する。特に、『日常食の調理と基礎』や『生活に役立つものの製作』のような技能習得に重点が置かれがちな単元においてその傾向が強いことがいえる。

本年度から全面実施の平成29年度版指導要領は、家庭科の目指す資質・能力の「思考・判断・表現力等」が、全ての内容ごとに「日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、課題を解決する力」であるとしている。平成20年度版の「生活を創意工夫する能力」の観点においても学習過程での思考や工夫を評価していたが、知識及び技能を活用し、自分なりに工夫しているかについて評価することに重点が置かれ

ていた。しかし、今回の平成29年度版は、学習者が創意工夫をしたことだけでなく、それに向けて「自分ごと」の課題を持ち、計画を立てて実践を評価・改善するまでのプロセスを評価することになる。

したがって、生活をよりよくしようと工夫する学習者を育てるためには家庭科型問題解決的な学習の過程をより広く一般化をしていくことが大切だと考える。その際、今回の調査からは次の3点が提案できそうだ。

- ①生活の振り返りをし、課題を持たせる際、「自分ごと」として追求できる課題となるよう、『B自分の考えをまとめる場』を設定した単元プランにする。
- ②習得した知識や技能、他者からの情報をもとに自分の考えを省察させ、次への改善を考える場『C新たな考えをまとめる場』を設定した単元プランにする。
- ③『家族・家庭生活』『身近な消費生活と環境』など学習者の生活に密着した単元と、従来より技能・技術習得に重点が置かれがちであった単元を組み合わせ、横断的な単元プランにする。

(2) 今後の課題

今回の調査は、「できていますか」という問いではあったが、問題解決学習に対して意識の違いから、問題解決学習をどのようにとらえているかをみるものであった。

筆者は一昨年まで学校現場で勤務しており、現場の多忙化と、学習者一人一人の問題解決学習を展開していく大変さは想像がつく。

しかし、学習者に自分の生活をよりよくしようと工夫する力を育むためには、一人ひとりの課題が大なり小なりはあっても問題解決的な学習を展開させなければならない。このためには、授業者が家庭科型問題解決学習をもっと積極的に取り組めるよう家庭科を取り巻くカリキュラムマネジメントに取り組んでいきたい。また、現場の教員とともに、より具体的な取り組み易い単元プランを提案しつづけていきたいと考えている。

8、引用文献

- 1) 米持広美「見通しを持った選択ができる生徒を育てる家庭科の学習指導～価値検討の場を位置付けた食品選択の意思決定を通して～」大分大学教育学部福祉科学部附属教育実践センターレポート(2009, 3) 第28号, 37-52
- 2) 伊波富久美「家庭科の授業における学びの過程―“自分にとっての意味”の確定―」日本家庭科教育学会誌(2019, 2) 第61巻4号, 203-214
- 3) 伊深祥子「学びを深める家庭科教育」日本家庭科教育学会誌(2018, 11) 第61巻第3号, 174-175

9、参考文献

- (1) 文部科学省「小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説家庭科編 12-15
- (2) 「児童生徒の学習評価の在り方について」2019, 1, 21 (中央教育審議会初等教育分科会教育課程部報告) https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/31/01/__icsFiles/afieldfile/2019/01/21/1412838_1_1.pdf
- (3) 第56回全国小学校家庭科教育研究会全国大会熊本大会報告2019, 11) 12-13